

市指定文化財（記念物・天然記念物）

平成24(2012)年3月30日指定
所有者 二宮神社

二宮神社のイチョウ

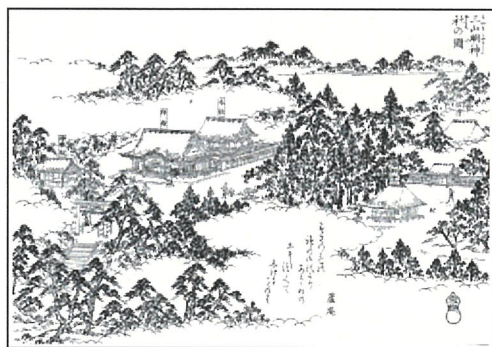
二宮神社正面の一の鳥居から参道を下り、御手洗を過ぎ石段を上ると、拜殿正面の二の鳥居脇に大きく聳えるイチョウがあります。この二宮神社のイチョウは、樹高2.5m、幹回り4.71m、葉張り17.4mの雌株で、市内最大級の太さをもつ、市内で最も高いイチョウです。（平成23年3月計測値）

イチョウはイチョウ科イチョウ属の落葉高木で、中国原産です。雌雄異株で、春、雄花、雌花とも葉が開くと同時に開花し、秋、扇形の葉が美しく黄葉し、雌株では種子が熟します。

神社境内には、クスノキ、モッコク、ボダイジュ、ヤブニッケイ、スダジイ、タブノキなどからなる鬱蒼とした叢林があり、二宮神社のイチョウは、こうした貴重な自然環境の中で守られ、健康状態も良好で樹勢も強く、すらりとした端正な姿をみせています。



黄葉した「二宮神社のイチョウ」



『成田参詣記』挿絵「三山明神社の図」

江戸時代の『成田参詣記』（安政5（1858）年刊行、清宮秀堅著、中路定俊・定得父子編）の「三山明神社」（現在の二宮神社）の挿絵として、長谷川雪堤によって描かれた「三山明神社の図」にもこのイチョウを見ることができ、江戸時代から人々に親しまれていたことがうかがわれます。また、今なおここを訪れる人々の間に、御神木として崇められています。凜とした佇まいで聳えるこのイチョウは、境内の厳かな雰囲気をもより一層ひきたてています。

船橋市教育委員会